

田中次郎：自然史学会連合ニュース (総会と第4回シンポジウム報告)

定期総会が1998年10月24日(土)、国立科学博物館新宿分館において開催されました。議長選出のあと以下の事項が報告、審議されました。

1 会計執行状況について

1998年度分担金の用途はシンポジウム関係であることの説明がありました。なお1999年度のシンポジウム1回分の費用も確保されています。

2 顧問について

以下7氏に1999年及び2000年の2年間、顧問をお願いすることが決定されました。

加納六郎、丸山工作、小野勇一、尾本恵市、岩槻邦男、斎藤常正、鎮西清高

3 日本昆虫分類学会の加盟について

日本昆虫分類学会の連合加盟が審議、承認されました。これにより現在(1999.1.1)の加盟団体は下記の35学協会です(あいうえお順)。(社)東京地学協会、(社)日本植物学会、(社)日本動物学会、種生物学会、植物地理・分類学会、植物分類地理学会、地衣類研究会、地学団体研究会、日本遺伝学会、日本衛生動物学会、日本貝類学会、日本花粉学会、日本魚類学会、日本菌学会、日本蜘蛛学会、日本古生物学会、日本昆虫学会、日本昆虫分類学会、日本植物分類学会、日本人類学会、日本生態学会、日本生物地理学会、日本蘚苔類学会、日本藻類学会、日本第四紀学会、日本地質学会、日本鳥学会、日本地理学会、日本動物行動学会、日本動物分類学会、日本プランクトン学会、日本ベントス学会、日

本哺乳類学会、日本鱗翅学会、日本霊長類学会。

4 そのほか

連合のもっとも重要な仕事の一つとして、ナチュラールヒストリー発展のためのアクションプランをいくつか設定していく方向が議論されました。「地域博物館における研究環境の改善」や「コレクション収蔵体制の整備」が、推進アイデアとして挙げられており、現在前者に関して積極的な検討が始まっています。

動物学会のガイアリスト21に関しては、引き続き効果的な支援を図ることになりました。

総会の後、自然史学会連合第4回シンポジウム(普及講演会)「干潟の自然史ー干潟の過去、現在、未来ー」が開かれ、100名ほどの聴衆を集めることができました。以下の演題により4名の演者から興味深いお話が聞かれ、活発な議論の場となりました。講演要旨集が無料で配布されました。来年もシンポジウムに取り組みたいという意見が多く、運営委員会では具体的なアイデアを検討しています。

1.干潟の生物とその生態/菊池 泰二(海洋生態学九州ルーテル学院大学)

2.干潟生態系の特徴、東京湾の干潟を例に/風呂田 利夫(海洋生態学 東邦大学)

3.干潟の生物相の危機/和田 恵次(海洋生物行動学 奈良女子大学)

4.化石になった干潟の貝類/鎮西 清高(古生物学 大阪学院大学)

(108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京水産大学)



表紙の説明

今号の表紙は、今年の1月1日から会長に就任された堀 輝三先生とそのチーム(事務局)のロゴを使わせていただいた。20世紀最後を締めくくる藻類学会事務局にふさわしいデザインとなっている。